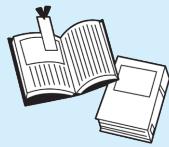


枝豆んまい。

まちとしよ

～大石田町立図書館 information～



Web OPAC
PC・スマホ版

- ◆ ☎35-3877 ◆ 公式HP <http://nji.town.oishida.yamagata.jp/library>
- ◆ 大石田町立図書館蔵書検索システム(WebOPAC)から蔵書の検索や貸出状況、新着情報の確認などができます。利用者登録をしている方は、貸出中の図書を予約することができます。詳しくは図書館にご確認ください。

- 開館時間 午前9時～午後7時(日曜日・祝日は午前9時～午後5時)
- 休館日 毎週木曜日(祝日の場合翌日) 《8月の休館日》6日(木)、13日(木)、16日(日)、20日(木)、27日(木)

8月16日(日)は大石田まつりのため臨時休館いたします！

なお、その他のお盆期間中の休館日・開館時間は通常通りとなります。

夏のおはなし会

くまのこうさく と たのしいおはなし

さんかひ 無料

2026 8.1 土

じかん ごご 2 じ ~ 3 じ

ばしょ 虹のプラザ 2階 中会議室

※ハサミをつかえない小さい子は、おうちのひととさんかしてね！

もうしこみはとしよかんまで！（当日もOK）

演劇公演「川にかかる虹」連携企画朗読会

入場 無料

最上川

朗読と音楽の夕べ

～川にかかる虹～

8.22 (土) 19:00開演 (出入り自由)

大石田町民交流センター「虹のプラザ」
1階エントランスホール

今月は、どの本を読む？



『短歌のガチャポン、もう一回』

(穂村 弘//編著、Melinda Paino//画 小学館)
わくわく、どきどき、にこにこ、がーん…。現代短歌の旗手・穂村弘が選ぶ、なんでもありの短歌のガチャポン・マシンが再び登場！明治から現在までの短歌100首を鑑賞文とともに収録。メリンダ・パインのイラストも掲載。

『1945年8月6日 あさ8時15分、わたしは』

(いわさき ちひろ//絵 童心社)
原爆を体験した子どもたちの作文をもとにつくられた「わたしがいいさかったときに」から生まれた本。6人の子どもの作文に、あまきみこ、アーサー・ピナードらの言葉や詩、いわさきちひろの絵を添える。



新着本から話題の本・おすすめ本を紹介します！



『スタートライン 風のなかへ』

(本田 有明//作、酒井 以//絵 金の星社)
花先生の笑顔につられて、なんとなく陸上クラブに入ったぼく。そばにいてくれる親友といっしょに走るなかで、自分の体を知り、陸上の楽しさを感じられるようになる。そして近づく、駅伝大会の日。ぼくは選手に選ばれるのか？

『そらのさんぽ』

(石津 ちひろ//詩、荒井 良二//絵 岩波書店)
詩人・石津ちひろと絵本作家・荒井良二(山形県出身)による、楽しい詩集絵本。「そらのさんぽ」「なのはな」「さえずりのれんしゅう」「みつけた」「いちにちぶんのひかり」など、心おどる詩20編を収録する。



※紹介文は「TRC MARC」より引用。すべて町立図書館蔵書。

虹のプラザ文化芸術プロジェクトマネージャーコラム

「校歌を身体で表現する」

vol.3

地域の未来を育む文化プロジェクトの一環として、大石田町内の小学校の閉校に関する式典に向けた特別企画を進めています。それは子どもたちが大切に歌ってきた「校歌」を、身体で表現する取り組みです。

校歌は、入学式、卒業式、節目の行事、何気ない学校生活の中で、何度も声にしてきた学校の記憶そのものです。そこには、地域の風景、学校の歴史、先生や友だちとの時間、そして子どもたち一人ひとりの成長が重なっています。その校歌を、声だけでなく身体でも表現してみよう。今回の企画は、学校に受け継がれてきた歌を、子どもたち自身の身体を通して新たに見つめ直す試みです。

振付・指導には、ニューヨークを拠点に世界で活躍するダンサー・振付家の中澤利彦氏をお迎えします。文化庁の派遣事業を活用し、世界の舞台で活動するアーティストと、町の子どもたちが直接出会う機会をつくることができました。これは、単にダンスを習うということではなく、自分の身体を使って考えること、仲間と一緒に表現をすること、そして様々な講師に触れ自分たちの学校や地域を新しい視点で感じることが、この企画の大切な目的です。新しいことに挑戦するときには、誰でも少し緊張します。う

まくできるか分からない。人前で動くのが恥ずかしい。間違えたらどうしよう。そうした気持ちも含めて、表現の入口だと思えます。ダンスは、正解をそろえるだけのものではありません。自分の身体で感じ、考え、動いてみることで、少しずつ「自分にもできるかもしれない」という感覚を育ててくれます。

将来、子どもたちが何かを始めようとするとき、進学、仕事、地域での活動、あるいは自分だけの夢に向かうとき、この経験が小さな支えになればと思っています。

「あのとき、みんなの前で踊れた」「自分たちの校歌を、自分たちの身体で表現した」。その記憶が、一歩踏み出すきっかけや勇気につながってくれたら、これほど嬉しいことはありません。

校歌は、過去から受け継がれてきた学校の歌です。しかし今回、子どもたちの身体を通して、今を生きる表現、そして未来へつなげる新たな形となります。式典の日の会場に響く校歌と、子どもたちの伸びやかな動きが重なったとき、そこにはきっと、大石田の未来を感じ、時間が生まれるはずです。

虹のプラザ文化芸術プロジェクト
統括マネージャー 大橋 武司

町長コラム

「次世代へ虹をかける」

『大石田サイコー！』

vol.31



皆さん、こんにちは！特産のスイカをたくさん積んだトラックを町中で見る季節になりました。暑い日が続いておりますので、どうか無理をせず、涼しい場所で休んだり、水分をこまめにとったりしながら、熱中症には十分お気をつけください。

さて、7月4日に今年で3年目となる「水辺で乾杯」を開催いたしました。当日は多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

出演団体、出店者、関係機関、準備・運営に携わってくださった皆様のおかげで、今年も大変楽しく、盛り上がりのあるひと時となりました。

会場では、「とても楽しかった」「また来年も楽しみにしています」といった声もいただきました。そのひとつと言いが、本当に嬉しく、ありがたかったです。

今回、大橋を通行止めにし、チョーフで自由に落書きができるようにしたところ、こどもたちが思い思いにたくさん絵や文字を書いてくれました。

した。その中に「大石田サイコー」というメッセージがあり、それを見た瞬間、思わず胸が熱くなりました。

最上川とともにある大石田町。最上川、夕陽、そして子どもたちの笑顔が重なり、胸にじんときくるものがありました。

一方で最上川とともに歩んできた大石田町は現在、引堤工事や大橋の架け替え工事等、大きな変化の中にもあります。移転を余儀なくされた方々の思いも、決して忘れてはなりません。

こどもたちが書いてくれた「大石田サイコー」というメッセージを、ただの一日の思い出で終わらせるのではなく、こどもたちも、住んでいる皆さんも、訪れる方々も、少しでも「いい町だな」と感じられるよう、町の魅力を楽しみ、守り、育てながら、大石田町を盛り上げていきたいと思っています。

大石田町長 庄司 中